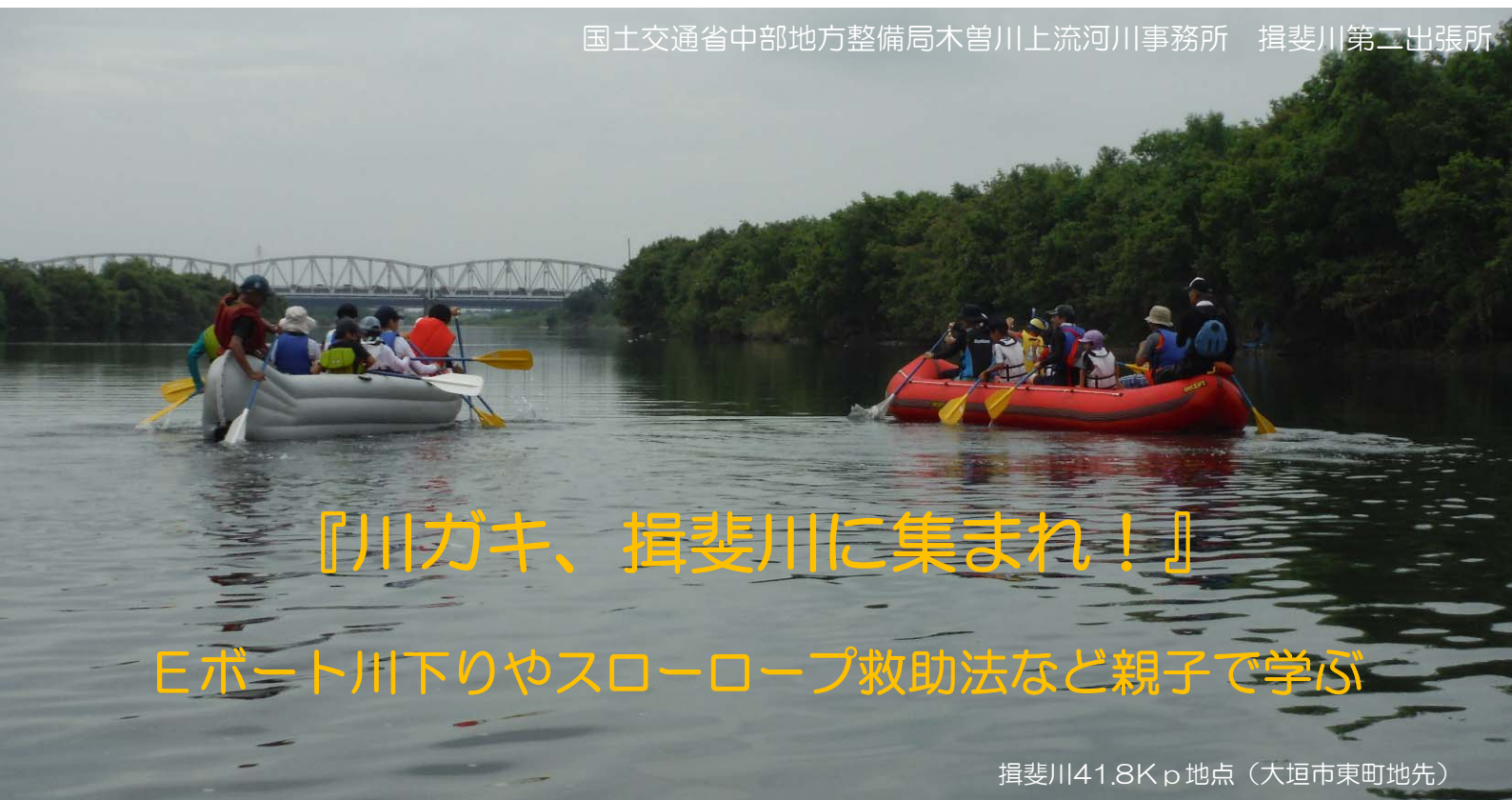




『川ガキ、揖斐川に集まれ！』

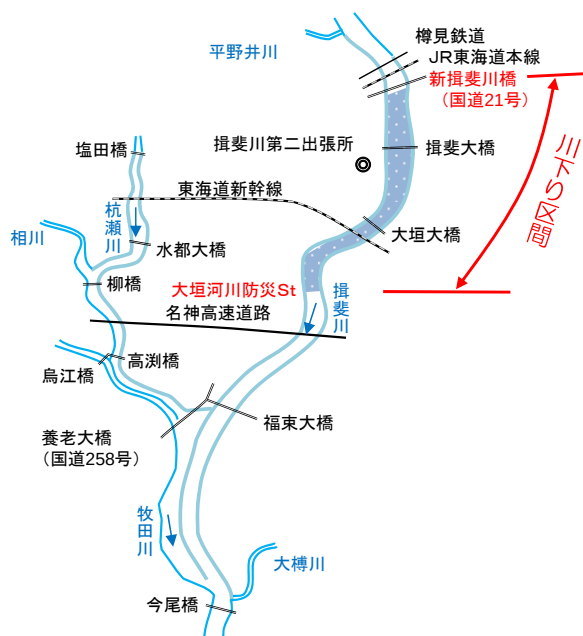
Eポート川下りやスローロープ救助法など親子で学ぶ

揖斐川41.8Kp地点（大垣市東町地先）

大垣市を流れる揖斐川中流部をゴムボートで下る「揖斐川の川下り」が8月2日（土）に行われました。大垣市環境市民会議が主催する「環境まるごと探検隊2014」の自然体験活動の1つとして、毎年、この時期に実施。川下りの区間は、国道21号付近（新揖斐川橋）から大垣河川防災ステーション付近までの約7キロメートル。

赤や白色のボートを前に、ライフジャケットを着た子どもたちは「冒険家みたい！」と胸を躍らせていました。

ボートには、野外活動事業を展開する大垣市環境市民会議のスタッフと「環境まるごと探検隊」隊員家族の9家族約30人が3艇に分かれて乗船し、揖斐川第二出張所も参加させていただきました。参加者たちはパドルを1本ずつ手に持ち、歓声を上げて岸を離れると、「1、2、1、2…」と元気に声を合わせながら大海原！に漕ぎ出し、途中、ボートを寄せて下りた中洲では、スタッフから流れが速く危ない場所や揖斐川の特徴について説明を受けたほか、水辺では魚や石を観察したりして約5時間かけてゴールしました。



■水難防止と救助訓練



朝9時半、国道21号（新揖斐川橋）下流の河原に集まった参加者たちは、自らが資材の運搬やボートの空気入れを行った後、スタッフの指導を受けながら、川で溺れた時の対処方法や救助方法などを体験しました。



■川のこんな場所が危険！

揖斐大橋（万石地点）の中洲では、実際に河原に降り立ち、橋脚の周りは流れが速く、水深が深いことを自分たちの目で見て、学校のプールとの違いを理解しました。



■地球のかけら「石」を調べよう！

河原にある大きな石、川底にある細かい石など、場所や地形によって変化に富んだ川の状態を確認し、石の種類を学びました。



■自然豊かな揖斐川、野鳥観察に思うこと・・・



Eボートで川を下って行くと、川岸付近では、アオサギやダイサギ、カワウなどを観ることができ、羽根を休めていたり、水辺や浅瀬を徘徊しながら、小魚などの獲物を探したりしているようでした。カワウが1日でアユなど摂餌する量は約500gであり、現在、揖斐川でもカワウによる食害化で困っていると説明すると、参加者たちは一様に驚き、子どもたちは、揖斐川の水は綺麗なのに、大きな魚が少ないことに疑問を感じ、スタッフに、その理由を尋ねていました。



代表 浅野 純一氏

普段、揖斐川で子どもが遊んでいる光景がないことがとても残念。「川は誰のものか？、誰のものでもない、だから、自然の中で思いっきり遊んでほしい。」と熱く語る浅野代表。



梶浦 敬一氏

川の楽しさや魅力を世代を超えて伝えていきたいと熱く語る梶浦さんは、野生動物や川の歴史などに詳しい。優しい口調で現地案内する姿は、まるで孫と遊んでいるかのように笑顔も眩しい。



伊藤 昭典氏

チョイ悪な風貌の伊藤さんは、言葉少なめながら、サングラスの向こうの目は優しく、子どもたちを見守る人の良さが垣間見える。



【参加者のコメント】

- ・とても楽しかった。また、来年も体験してみたい。
- ・ボートに空気を入れるのが大変だった。
- ・ライフジャケットを着けて泳ぐのが楽しかった。
- ・パドルで水を掻き上げると、茶色い苔が浮かんできた。
- ・川岸にゴミが引っかかっていたし、大きな木が倒れていた。
- ・小さな魚を見つけれたけど、大きな魚は見つけれなかった。
- ・川の水が透けて川底が見えた。この川の水は飲めるのか疑問に思った。
- ・ゴール地点の川底には、すごい量の粘土が堆積し、足が取られ、思うように動けなかった。
- ・自分でパドルを使い漕ぐのはとても大変だったけど、皆で力を合わせると速く進んだ。

